

ベランダブリッジ(アルミ)

特長

1) 用途について

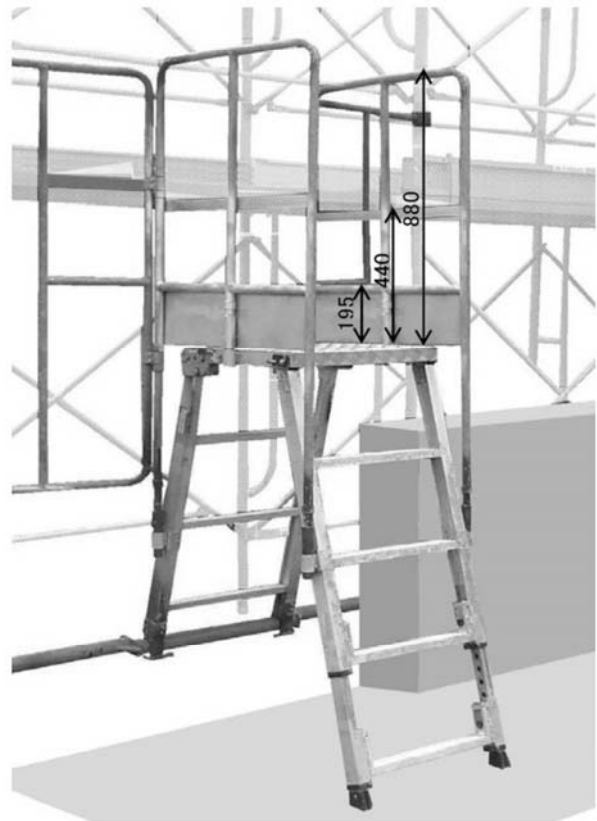
従来、枠組足場と躯体のベランダやバルコニー間等の乗り越しには、単管と自在ステップ等を使用し、現場に合わせて通路を構成していました。ベランダブリッジはこれに代わり、組立解体が簡単で、安全性を重視した仮設通路です。

2) 使用上について

- ① 取り付けする枠組足場は、1829と1800のどちらのスパンにも使用することができます。
- ② 足場側の床レベルにより、上下どちらからでも昇降することができます。
- ③ 本体両サイドの手摺が大きいので、昇降時の手がかりが手元近くにあり、安心して通行できます。
- ④ 足場側の手摺は上下スライド式ですから、使用位置に合わせて、作業者を安全にガードします。
- ⑤ 手摺壁の型枠組立て、解体の際も、盛り替えしないで使用することができます。

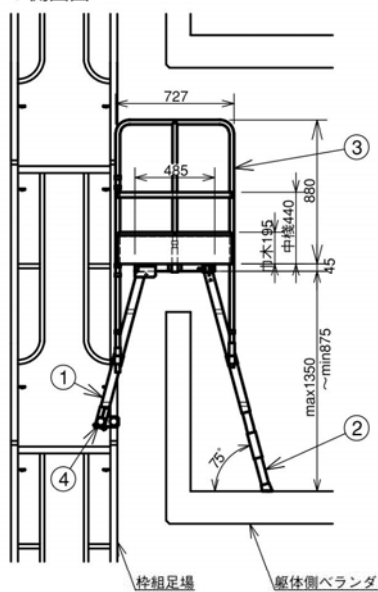
3) 組立解体等について

- ① ベランダブリッジは、ラチェット1本で組立、解体できます。
- ② 本体は、アルミ製で軽量なため、作業が楽に行えます。
- ③ クランプ、ボルト、ピン以外は全体を溶融亜鉛メッキにしていますので、耐久性に優れています。また、クランプ等の部品が破損した場合でも、交換が可能です。
- ④ 各部材ともバラの状態では、全てコンパクトに折り畳むことができますから、保管や運送効率の点でも優れています。

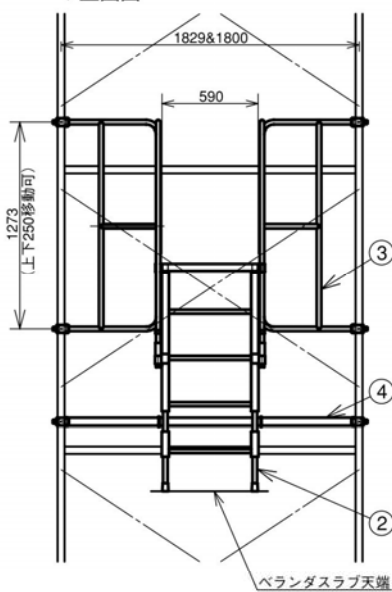


● 構成部材

▼側面図



▼正面図



① 本体A

② 本体B



③ 手摺棒



④ 根がらみ

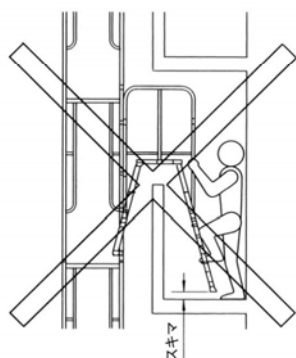
No	部材名称	品番	数量/セット	重量(kg)	許容荷重(kN)
①	本体A(足場側)	BLB-AA	1	8.8	1.47
②	本体B(建物側)	BLB-BA	1	6.8	
③	手摺棒	BLB-HN	2	12.4	
④	根がらみ	BLB-L	1	6.8	

組立順序…(解体方法は、この逆手順で行います)

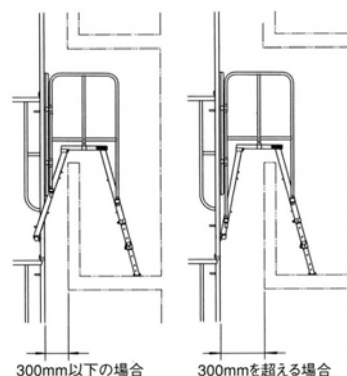
No.	組立て順序	説明図
①	躯体のベランダ手摺壁の高さに、余裕をプラスして、脚の高さを決め、差込脚をこれに合わせてピンでセットします。	
②	ブリッジの天板が水平になるように、根がらみの位置を決めて固定します。根がらみは、中央部が足場の内側になるようにします。	
③	本体Aを根がらみの中央に載せ、躯体側の本体Bと組立て、ピンで固定します。次に調整脚を等間隔の位置に合わせてセットします。また、本体A側の吹き上げ防止ネジを締め付けます。	
④	手摺柵(固定手摺)部を、ブリッジ本体の固定金具(3ヶ所)に差し込みます。この時、回転手摺のクランプは、開いたまま、建枠の建地に添わせるようにしておきます。次に手摺柵(回転手摺)部の高さを合わせてクランプを締め付けます。	
⑤	最後に、反対側の手摺柵を取り付けると、組立て完了です。(なお、手摺柵は、左右共用です。)	

使用上の注意

- 1) 使用前に、ネジ、ピン、クランプ等が確実に利いている事を、確認して下さい。
- 2) 許容荷重(150kg)を超える荷重は、かけないで下さい。
- 3) 昇降する足場のレベルは、上下いずれからでも可能ですが、安全のためできるだけ下位レベルから昇降するようにして下さい。また、昇降するレベルは一方に決めて下さい。この時、昇降しないレベルのプレースは、外さないで下さい。
- 4) 使用する場合、手摺には載らないで下さい。
- 5) ベランダ側の脚端が、浮いている状態では、絶対に昇降しないで下さい。



- 6) ベランダブリッジは足場と躯体との間隔が300mm開いている時にベランダの手摺壁がほぼブリッジの中央に位置します。故にそれ以外の間隔の場合では、右図のように片寄り状態となります。(ただし300mmより間隔が大きい場合には、根がらみの取り付け方向によってこれを修正することが可能となります。約100mm)



- 7) ベランダブリッジをセットしたスパンの両サイドのプレースは、取りはずさないで下さい。